

8 国の「健康・医療戦略」等への「未病」の明確な位置づけについて

超高齢社会を迎えた我が国では、2010年から2025年までの15年間で、65歳以上の高齢者は約709万人増加し、社会全体の高齢化率が23%から30%に大幅に上昇することから、高まる医療・介護ニーズへの対応に引き続き取り組むとともに、健康寿命を伸ばし、高齢になっても健康で生き生き暮らせる社会を実現する必要がある。

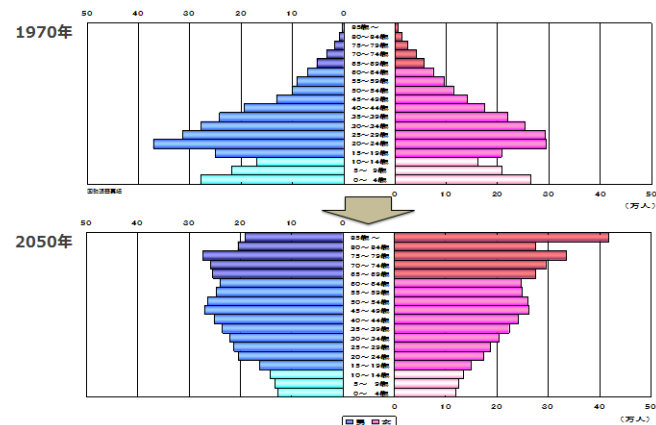
そのためには、病気になってから取り組むのではなく、健康と病気の間を連続的に変化する状態である「未病」の段階から、健康に近づける取組みを推進する必要がある。

同時に、超高齢社会における成長産業として、「未病」を新たな市場・産業の創出につなげていく必要がある。

国においては、「健康・医療戦略」（平成26年7月策定）や「健康・医療戦略の実行状況と今後の取組み方針2015」（平成27年7月決定）において、地方の先駆的な取組みとして「未病産業の創出」や「健康・未病産業」をはじめとした健康長寿社会の形成に資する新たな産業活動の創出」といった神奈川県が取組みが紹介されているが、今後は、国として未病に取り組んでいくことが望まれる。

については、健康・長寿社会の実現に向けた「未病」の取組みを全国的に推進するため、未病コンセプトや具体的取組みの方向を国家戦略である「健康・医療戦略」に具体的に位置づけるなど、特段の措置を講じられたい。

1 提案の趣旨

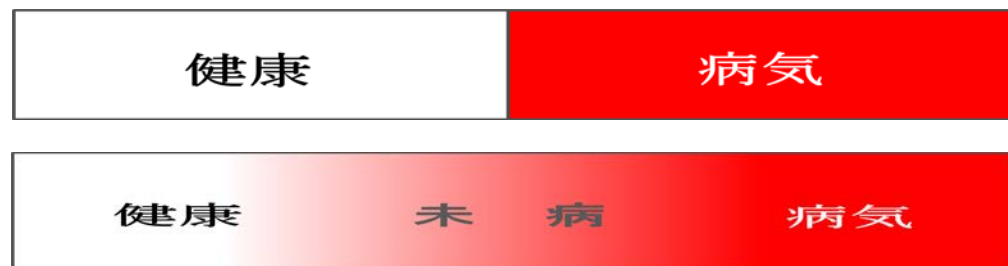


健康寿命を伸ばし、高齢になっても健康で生き生き暮らせる社会を実現する必要がある。

そのために、病気になってから取り組むのではなく、健康と病気の間を連続的に変化する状態である「未病」の段階から、健康に近づける取組みを推進する。

2 「未病」の概念

「未病」とは、「病気」と「健康」を2つに明確に区分するのではなく、心身の状態をグラデーションのように徐々に変化していくものと捉え、このすべての変化の過程を表す概念



3 本県の取組

本県では、「最先端医療・最新技術の追求」とともに「未病を治す」という2つのアプローチによる「ヘルスケア・ニューフロンティア」の取組みを「国家戦略特区」等3つの特区を活用して推進しており、「未病」は大きな柱の一つ



4 「未病」の広がり

【本県の未病の取組みを国が紹介】

国の「健康・医療戦略」（H26.7策定）や「健康・医療戦略の実行状況と今後の取組み方針 2015」（H27.7決定）において、地方の先駆的な取組みとして本県の「未病」の取組みを紹介

※詳細は別紙神奈川県資料②のとおり

【『未来貢献プロジェクト シンポジウム「未病を一緒に考えよう」』（読売新聞社主催）】

「未病」について日本医師会の横倉会長や内閣官房の大谷参与、民間企業、来場者の皆さんも一緒になって語り合う。



※「未病サミット神奈川 2015 in 箱根」（10月22、23日開催）国内外の各分野トップクラスの専門家が未病を議論する国際シンポジウムを開催

5 提案内容

今後は、健康・長寿社会の実現に向けた「未病」の取組みを国家戦略として全国的に推進する必要がある。

【提案】

未病コンセプトや具体の取組みの方向を国家戦略である「健康・医療戦略」に具体的に位置づけるなど、特段の措置を講じられたい。

具体的には・・・

「未病」について、「健康・医療戦略」や「健康・医療戦略の実行状況と今後の取組み方針」（毎年策定）に、具体的に国の取組として明記し、国家戦略として明確となるよう特段の措置を国に求める。

「健康・医療戦略」（平成 26 年 7 月策定）（抄）

<はじめに>

「（前略）神奈川県において創出に向けた取組が進められている「健康・未病産業や最先端医療関連産業」をはじめとした健康長寿社会の形成に資する新たな産業活動の創出やこれらの産業の海外における展開を促進することにより、（以下略）」

<3. 施策の推進>

2) 地方公共団体の役割及び連携・協力

① 神奈川県における先駆的な取組について（略）

○ 未病産業の創出

- ・ 最先端の診断技術により簡易に健康状態を把握するシステムを構築することによる新たな未病産業の創出の促進

「健康・医療戦略の実行状況と今後の取組み方針 2015」（平成 27 年 7 月決定）（抄）

I. はじめに

「（前略）神奈川県において創出に向けた取組が進められている「健康・未病産業や最先端医療関連産業」をはじめとした健康長寿社会の形成に資する新たな産業活動の創出やこれらの産業の海外における展開の促進が重要との考えの下、（以下略）」